令和元年度 弘前市顕彰

令和元年度の「弘前市顕彰規則による顕彰」の受賞者が決定しました。

この表彰は、長年にわたり、教育・文化・産業・経済の振興など市政の発展に尽力した個人や団体の功績をたたえるものです。本年度は、６個人と１団体が晴れの栄誉に輝き、顕彰状と金色に輝く卍（まんじ）をあしらったヒバ製の盾が贈られました。

本年度の受賞者・受賞団体を紹介します。

■**問い合わせ先**　秘書課（☎40-7022）

市政の進展、社会福祉の増進等に寄与

平山（ひらやま）　壮三（しょうぞう）さん（82）

統計調査員として、統計調査に従事したほか、市統計協会の名誉会長として統計思想の普及、後進の指導に尽力するなど、市政発展に大きく寄与しました。

塩﨑（しおざき）　幸治（ゆきじ）さん（82）

納税貯蓄組合長として納税思想の普及高揚や後進の指導育成に努めたほか、市納税貯蓄組合連合会の理事や副会長を務め、会の適正運営に尽力するなど、市政発展に大きく寄与しました。

藤田（ふじた）　立榮（たつえい）さん（89）

町会長として町会活動の維持・発展に努めたほか、市町会連合会代議員や理事を務め、地区の課題解決に尽力するなど、市政発展に大きく寄与しました。

倉光（くらみつ）　稲子（いねこ）さん（74）

民生委員・児童委員として地域福祉の向上に努め、市民生委員児童委員協議会の副会長として後進の指導育成に尽力したほか、保護司として更生保護活動に取り組むなど、社会福祉の向上に大きく寄与しました。

佐藤（さとう）　ツヨさん（77）

市交通安全母の会連合会会長として交通安全活動に取り組み、交通安全思想の普及高揚に貢献するなど、当市の交通事故の抑止に大きく寄与しました。

産業、経済等の振興に貢献

對馬（つしま）　允（まこと）さん（75）

杭止堰土地改良区理事・理事長として、地域の農業基盤整備に努め、地域農業の振興や農業経営の合理化に大きく寄与しました。

教育、文化等の振興に貢献

弘前美術作家連盟（ひろさきびじゅつさっかれんめい）（吉澤（よしざわ）　秀香（しゅうこう） 委員長）

長年にわたり、日本画・版画・書道・写真など９部門において広く活動し、定期的に展覧会を開催することで市民の芸術鑑賞の機会を創出するなど、当市の文化芸術の振興に大きく寄与しました。

健康増進事業を補助します

弘前市ライフ・イノベーション推進事業費補助金

市では、「ひろさきライフ・イノベーション戦略」に基づき、市民の健康寿命の延伸を図ることを目的とし、市内の事業者が従業員の健康増進に資する新規の取り組み、または取り組みを拡充して実施する際に必要な補助対象経費について、補助金を交付します。

▼**補助対象**　国が認定する健康経営優良法人、青森県が認定する青森県健康経営事業所、市が認定するひろさき健やか企業、全国健康保険協会が認定する健康宣言事業所

▼**補助対象経費**（１事業所につき、年度内の交付回数は１回まで）…がん検診の機会を設定している事業所のうち、従業員の各種がん検診受診に係る本人負担分に相当する経費（市で実施しているがん検診を除く）／がん検診の結果、精密検査が必要となった人の、精密検査実施に係る本人負担分に相当する経費／従業員の禁煙外来治療費に相当する経費（薬剤費含む。治療開始から 12 週間まで。保険適用の有無は問わない。）／禁煙宣言した従業員への禁煙補助剤購入費に相当する経費（１人あたり補助上限額１万円）／血圧計（事業所設置用または家庭血圧測定のための従業員貸出用に限る）／体重計／体組成計／血管年齢測定器／健康管理に用いる情報機器（携帯端末、通信・接続機器等）／フィットネスクラブの法人契約に要する経費

▼**補助率**　補助対象経費の２分の１（上限 30 万円）

▼**補助事業の期間**　平成 31 年４月１日から令和２年２月 29 日までの事業

▼**申請期間**　必要交付決定額が予算額に達するまで、または令和２年２月 29 日まで

▼**申請方法**　必要書類を郵送または持参で提出してください。

※交付申請書等の必要書類は市ホームページからダウンロードすることができます。

■**問い合わせ・申請先**　健康増進課健康づくり総合推進担当（〒 036-8711、野田２丁目７の１、☎ 37-3750、ファクス 37-7749）

令和２年４月 11 日開館！！

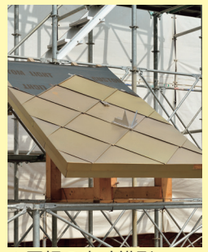
弘前れんが倉庫美術館アート通信

第１回　シードル・ゴールドの屋根

■問い合わせ先　吉野町緑地整備推進室（☎40-7123）

吉野町煉瓦倉庫の改修工事が進む「弘前れんが倉庫美術館」は、外壁の足場が撤去され、黄金色をした屋根が現れました。市内の高い建物からはその全貌を見ることもできます。

酒造工場として建設され、約 100 年の歴史を刻んできた建物は「記憶の継承」をコンセプトに、煉瓦倉庫の魅力を最大限に活かし、国内外の先進的なアートを紹介する美術館に再生されます。設計は、エストニアの国立博物館をはじめ数多くのプロジェクトを手掛ける建築家・田根剛さん。かつてこの場所でシードルが生産されていたことから、「シードル・ゴールド」と称したチタン材の屋根が美術館の象徴としてデザインされました。薄さわずか 0.3mm の正方形に切ったチタン材の４辺をそれぞれ折り曲げ、１枚ずつひし形に組み合わせながら取り付ける「菱葺（ひしぶ）き」という工法で、その枚数は約１万 3,000 枚にも及びます。また、特殊な技法によって加工された表面は、光の入る角度によって発色し、朝は白金色に、正午には黄金色に、夕刻には夕陽を受けて赤金のシードル色に深く染まるなど、色の変化を楽しむことができます。



▲屋根の実寸模型
©NAOYA HATAKEYAMA

▲上空からみたシードル・ゴールドの屋根（完成イメージ）
©Atelier Tsuyoshi Tane Architects

田根さんはこのシードル・ゴールドの屋根について「北国における爽快な夏の青空の景色や、雪原の広がる冬の風景の中で、吉野町周辺の歴史を支え続けた煉瓦倉庫の建築と、刻々と移り変わるシードル・ゴールドの風景が彩りを与えることで、弘前れんが倉庫美術館が未来の記憶へと繋がることを期待しています」とメッセージを寄せています。